

ZICHI Lorentz

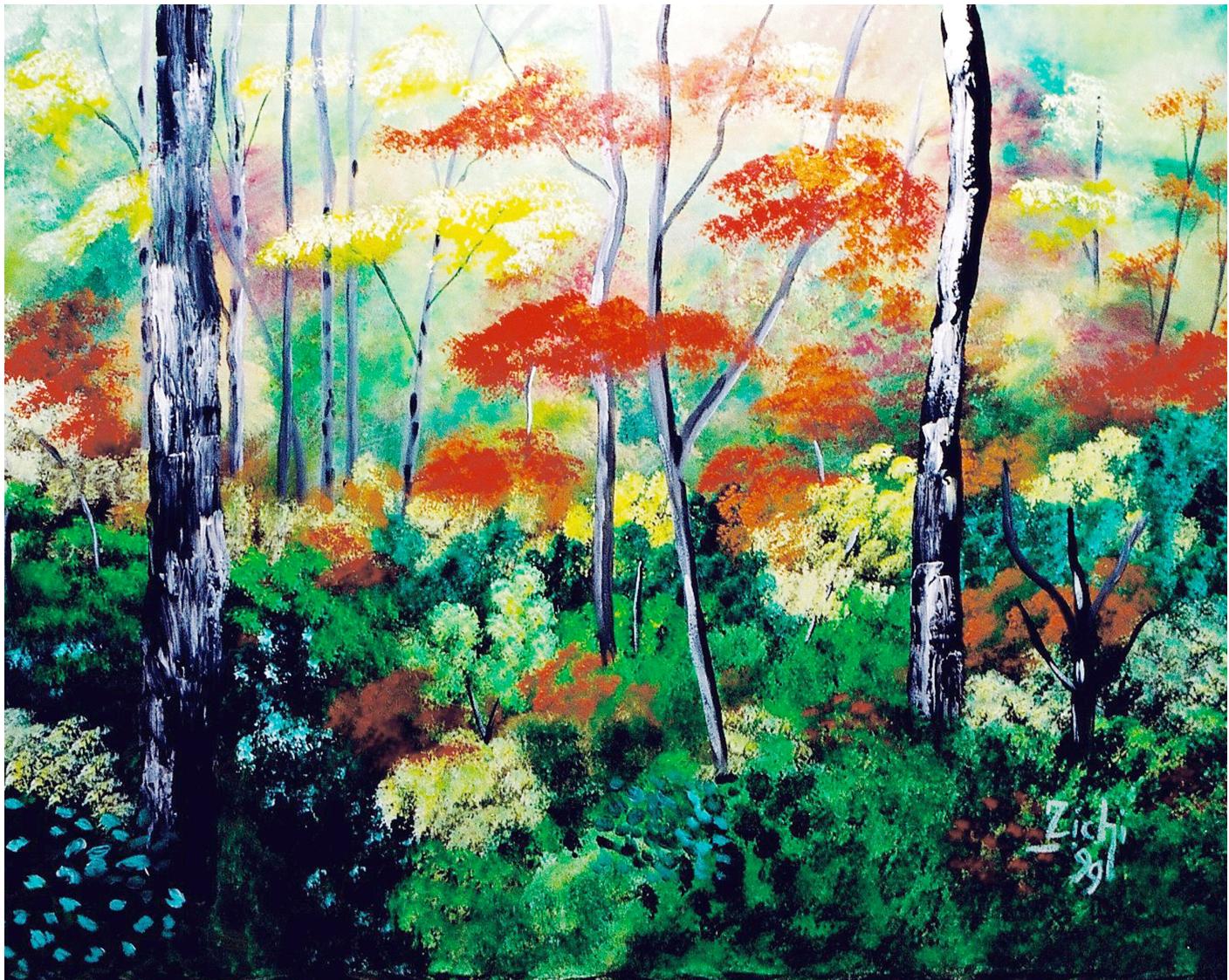
ブライアン・ジーチ・ローレンツ



tel:080-5315-3597 fax:078-360-8467 url:<http://www.zichiart.com> email:zichi@mac.com

RESUME 履歴書

Art is a Journey, not a Destination



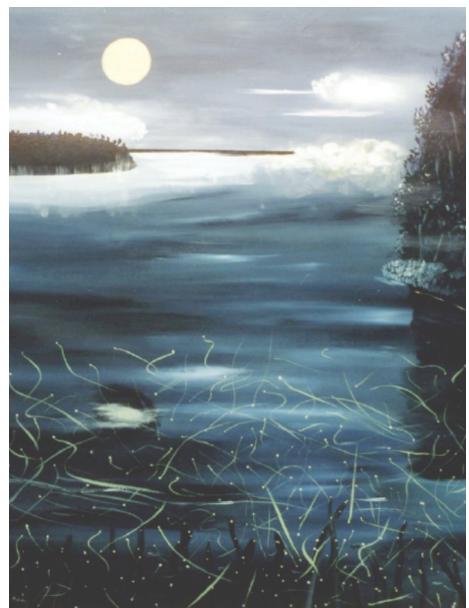
ARTIST STATEMENT A journey 旅・光の舞 輝きの島

私が作品のスタイルを固定しない理由は、死ぬまで探求者でありたいからだ。人間性を広げ、人格を磨き、自身を高めゆくこと、私はこのことが芸術家として最高の作品を生み出してゆく道につながると信じている。人間性の反映が芸術・アートであり、ときどき「心」は技術を征服する。私は自身を束縛している殻を破り、自由な精神をもって満足の人生に到達したい。その生命的感動が私にとって創造する喜びとなる。永遠の旅人、終点のない journey—旅での、光の舞い…私の展覧会やイベントを通して折々に、その舞を、ダンスを、あなたと共有できたらうれしい。ストレスは昨日の子どもであり、決して明日への大人になることを許してはならない。この瞬間を、そして今を生きよう。記憶とは現実の影のようなものである。芸術はパワフルな力の癒しを芸術家にも鑑賞者にももたらしてゆく。私達はアートでストレスを乗り越えることができる。癒しの過程は、私達が自身の生命を支配する瞬間に始まる。

Zichi

Art is a Journey, not a Destination

舞来庵 慈智 路蓮津



Seascape Painting 海の絵画

Landscape Painting 景色の絵画

Flower Painting 花の絵画

Abstract Painting 抽象画

1952-

彫刻家を父に英国 リバプールに生まれる
ノースイーストロンドン大学卒(水彩画'テキスタイルデザイン専攻)
ロンドン大学ゴードンズミスカレッジより入学招請を受ける
英國アーティスト 62 グループメンバー
英國工芸評議員会 メンバー
大英博物館付属大英図書館アーティスト
アッシャーズ社ハンドプリントシルクテキスタイルデザインコンサルタント
(顧客英國王室etc)

特別受賞 Special Award

エジンバラ公爵賞 -ブロンズ・シルバー・ゴールド3賞-

(エリザベス女王陛下夫君)

作品買い上げ

英国にて、富士美術館用として作品が買い上げられる(1989)

Flower Painting

花の絵画

個出展

イギリス（ピクトリア＆アルバート美術館、ハンプトンコート、マンチェスター大学、タブローコート他）、イタリア、フランス、カナダ、アメリカ他多数

出展 Exhibition

個展 One Man Exhibition

- 1995.05 珈琲俱楽部『寛』 白馬グリーンガーデン
1995.06 第10回国際映画映像祭白馬大会来賓ラウンジ
白馬オリンピック村
1995.06 長野県大町市 ギャラリーろく亭
1995.07 長野県美麻村 ぽかぽかランド
1995.07 長野中央郵便局ギャラリー
1995.08 東京銀座 ステップスギャラリー
1995.11 新潟県 ホテル「マイパラダイス」（企画展）
1996.02 ギャラリー82 長野市
1997.07 長野市 平安堂（企画展）
1997.08 東部町 ウィナパーク（企画展）
1998.06 英国祭'98～British Festival UK'98～ 公式イベント
として1年間の展覧会 信州新町美術館、朝陽館ギャラリー、道の駅中条、平安堂新長野店、長野中央郵便局ギャラリー
1999 インターネットギャラリー "Alpine Arts Atelier"
2000.08 小布施町 A. La. Obuse
2001.09 長野市 ギャラリーはせがわ
2003.06 Gallery 北野坂 Kitanozaka Gallery Kobe City
2003.11 Rhine House Gallery Kitano Ijinkan Kobe City
2003.12 Rhine House Gallery Kitano Ijinkan Kobe City



Seascape Painting 海の絵画

個展 One Man Exhibition

2005.05 MG Gallery Kobe City Japan

2005.09 CAP House Galleries Kobe City Japan

グループ展 Group Exhibition

初来日 1994.10 東京都美術館「国際 美術展」に主要作品 出展 (第20回特別 記念国際美術展)

賞、授与など Award

1995.07 第27回第三文明展 奨励賞受賞大沼映夫氏の推薦をいただいて

(審査員・東京芸術大学芸術学部長・洋画家)

1995.07 同第三文明展イメージポスターに作品が採用される

1995.09 原禮之助博士から推薦文『世界の人々に幸福を』をいただく

1995.09 信濃美術館「日本水彩画会県展」入選

1995.10 主要作品6枚が東京国際友好会館に常設展示にしていただく (6枚シリーズ)

1995.12 英国大使館文化担当部ブリティッシュ・カウンシルより個展開催について'後援'承認される

1996.09 信濃美術館「日本水彩画会長野支部展」入選

1997 美術年鑑に現代水彩画家として掲載される

1997 大阪府Oasis97国際展に招待出品

1997.08 第29回第三文明展入選(富士美術館・東京都美術館)

1997.10 主要作品が東京国際友好会館に常設展示にしていただく (絹布2m×2m)

1997.10 研究費をDr. Daisaku Ikedaより授与される

Landscape Painting 景色の絵画

賞、授与など Award

1998 英国祭'98公式イベントとして参加することについて英国首相、在日英國大使より奨励のレターを受けとる

1998.2.6 英国アン王女御出席、英國大使館主催レセプションに招待を受ける

1998 原禮之助博士から推薦文『安らぎと平和 そして希望・ローレンツ・ジーチ氏の芸術』をいただく

1998.9 信州新町美術館に主要作品所蔵となる

2000 新日本美術院（新院展）より会員の推挙を受ける

2000 インターネット上の入選登録されたタイトル
・World Artist Directory
・Professor Seeds
・Phenomenal Men of the Art

2000.6 原禮之助博士から推薦文『ローレンツ・ジーチ氏の愛の芸術』をいただく

2001.3 「日本の美」シリーズ'さくら'に作品が掲載される (p464作品,p555略歴)

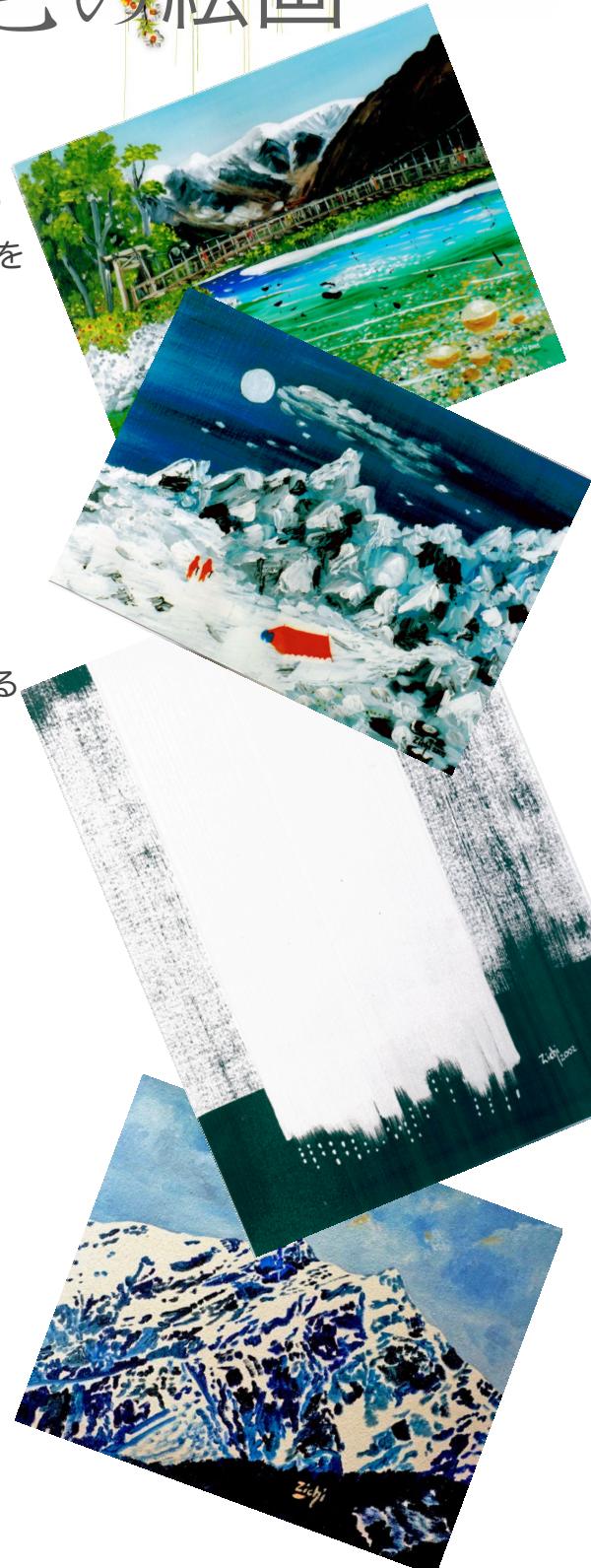
2001.11 第33回新院展にて「東美賞」受賞

2002.5 日本永住許可取得

研究 Study

1995-2000 日本画東山魁夷先生

1998 激励の手紙を拝受



Abstract Painting

抽象画

メディア Media

雑誌

1995 グラフSGIより取材「アルプスの美を世界市民に届けたい」世界128カ国へギャラリー、月刊神戸っ子

TV

1996 長野朝日放送テレビで「信州の自然を描く英国人画家」放送される
SBC, NHK, NBS, ABN
よりテレビ取材を受ける

新聞

信濃毎日新聞、産経新聞、長野市民新聞、長野県国際交流アンピュース、東京新美術新聞、週刊長野、
上越タイムス、大糸タイムス、須坂新聞
朝日新聞、毎日新聞、神戸新聞、産経新聞
FM長野 ゲスト出演

芸術論講演 Lecture

1996 信州豊南女子短期大学「The Purpose of Art」
(学生・一般市民対象)

作品コレクション Collections

公共、個人のコレクション

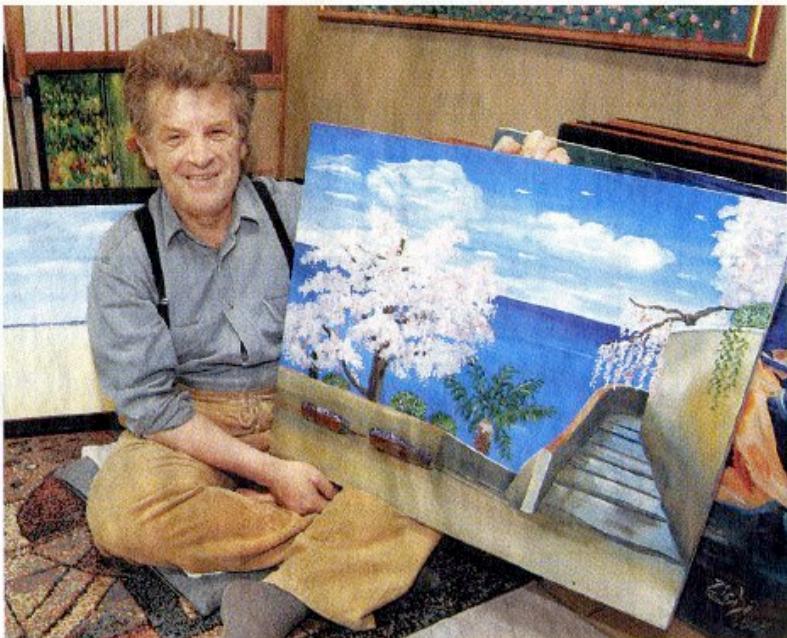
英国、フランス、イタリア、オランダ、ドイツ、カナダ、
アメリカ合衆国、メキシコ
オーストラリア、日本

Art is a Journey, not a Destination

故郷リバプール 身近に感じる港町

ピートルズを生んだり
パブルも、神戸も古く
からの港町。「神戸な
ら、故郷を感じる
ことができる」と神戸
への移住を決め、今年1
月、兵庫区の住宅街の一
角に自宅兼アトリエを構
えた。自宅近くの公園で
イーゼルを広げると、地
元の人たちが親しく述べ
かけてくる。震災から立
ち直ろうとする力も感じ

ローレンツさん 4日から中央区で 信州から移住、初個展



須磨の海を描いた「SAKURA SEA」を手にするローレンツさん＝神戸市兵庫区の自宅で

画家は空間と格闘する。何のために？いやむしろ人間が自分の手で風景を描けると分かったときから、つまりその能力に気づいたときから、この業のよくな表現に逆に取りつかれたのではなかろうか。そして実際人間はこの困難な闘いに時に成功するのである。神戸の光に引かれ、ここで念願の個展を開いたアーティストの強い作品「灌2」の場合がそうである。

東西の美が呼応

卷之三

大きな刷毛のようなもので、漆黒のアクリル絵の具がサンダーと塗り下ろされている。その後々とした落丁の上に再び大胆に強い白。画家が制作に費やす行為はこの、たった二種類。だがそのつかの間の動きで現れるこの空間の壮大さ。

美術

もはや画家は滝を描いたのではない。彼は滝になつたのだ。画面にズバッと切り込んだとき、画家は恐らく心で沈黙の叫びをあげたろうが、私たちはそれを落水のところさきと聴くのである。この“転身”的奇跡を見据えれば、彼がなぜ日本に身を置いて制作するか、なぜ東山魁夷を敬愛するかが理解できる。

強靭な岩盤、じつじつと崩れ

風景画家神戸に恋

ローレンツさんは大学
で水彩画などを専攻し、

ロンドンを拠点に欧洲で創作活動を展開。ロンドンで知り合った妻の喜久子さん(53)の郷里、北アルプスを一望する長野県北部の小川村に94年未、移り住んだ。雄大な山々や真っ白な雪に囲まれ、夢中になつて描いたアクリルペイントの風景画は500点にのぼる。

神^ミで初めて迎えた春

く咲く桜の花を、なまかに上の階段とともにいた。「桜は出会いの節の花。階段は新しい活の始まり。空と海は限の可能性。僕の今

6月15日までの午前11時～午後6時（最終日は午後5時まで）。同9日は休館。問い合わせ（午前11時から同10時まではローレンツさん（0-78-3600・6775）。

持ちと重なる】
歐情をはじめ、創作活動をしながら各地を転々とし、様々な風景を眺めてきたが、「神戸に恋しき」と話す。腰を据えて描き続けたが、一生かりの神戸父子だ。

英国の港町、リバプール出身の風景画家ブライアン・ジーチ・ローレンツさん(51)が、神戸で初めての個展を6月4日から、神戸市中央区山本通1丁目のGALLERY北野坂で開く。「故郷のように、海が見える町で暮らしたい」と今年初め、約8年住んだ信州から神戸に移住。個展では、須磨の桜や淡路島を望む海辺、近所の公園など、目に飛び込む自然の風景を生き生きと描いた作品約50点を披露する。

B・Z・ロー・ン展は十
五日までギャラリー北野坂
078-222-5517

山本忠勝

亥申

戸

亥

辰巳

2005年(平成17年) 10月1日(土)

トラウマ癒やすアート

英国人画家、神戸で個展

神戸在住の英国人画家
ブライアン・ジーチ・ローレンツが、アトリエを構える旧神戸移住センター内のアート施設「CA HOUSE」で、百六点もの作品を集めた個展を開いている。

一九五二年生まれ。古典型な水彩技法とテキスタイルデザインを大学で学んだが、本格的な画家活動は、日本人女性と結婚して来日した一九九四年から。三年前、長野県の山村から神戸に居を移し、日本画にも魅せられて墨絵も描き、色とりどり

し、拠点としている。

アクリル絵の具を多用し、なめらかさと質感を兼ね備えた画面。長野で山の風景を多く描いたのが、神戸では海と山、空の風景、抽象的な色と形から、自分のライフマスクを用いた立体作品まで、奔放に制作する。「神戸にきて、表現の自由を獲得した」と話す。展示作品の八割は、神戸で制作したものだ。

の絵の具のチューブで「生け花」を作つて見せたりもする。「米国の影響で世界中がマクドナルド化しているが、日本文化の精神は素晴らしい」と、伝統文化を現代アートに“翻訳”する役割をも買って出る。

「絵画の世界の九割は絵の中にある。との一割は見る人が作る」そう語る不思議の國の住人、ローレンツが今回特に意識したのが震災の被災者の存在だという。自身も九二年にロンドンでビル爆発事故に遭遇し、九死に一生を得た。今も物音に脅えるなどの後遺症に苦しむ。

「アートにはトラウマを癒やす力がある。私の作品を通して、神戸の人にも生きる希望を感じ取ってもらえば」

(三上喜美男)
△
五日まで。火曜休館。
078・230・87



万華鏡の目

ビートルズの歌と「不思議の国のアリス」の世界が合体した作品「万華鏡の目」の前で=神戸市中央区山本通3



From The Ambassador

平成 10 年 8 月 17 日

英國祭 UK98 に寄せて
AMBASSADOR'S MESSAGE

日本では英国という歴史・伝統・古き良きライフスタイルで知られており、私どももこれを誇りとしています。しかし英国にはこうした伝統的な国のイメージ以上のものが遙かに数多くあります。今日の英国と英国人には、創造性と革新性、そして大いなるダイナミズムというものがあり、伝統的な強さと価値観を保ちながらも、常に新しいものに挑戦しようとする意欲に満ちあふれています。

英國祭 UK 98 は、古典的な美術から現代文化とライフスタイル、そして科学技術から日英間の草の根交流にいたるまで、今日の英国が誇る多様性をお見せする格好の機会となるものです。英國祭 UK 98 は皆様が「知らなかった英国」を紹介します。きっとお楽しみ頂けるものと確信しています。

英國の誇る偉大な芸術文化の影響を受け、培ったユニークな創造性と色彩感覚により、ブライアン・ジーチ・ロレンツは英国で習得した古典的水彩技法をベースにチャレンジ精神にて、日本アルプスの四季を体験しながら 4 年間、日本の心そして信州の美を追求してきました。今回はそのベストを英國祭イベント展としてお見せします。この「ブライアン・ジーチ・ロレンツ展 — 信州の美」を通してきっとご満足と幸福感を味わっていただけるものと確信します。

イベントのご成功をお祈り申し上げます。

A handwritten signature in black ink, appearing to read "David Wright".

駐日英国大使
サー・デーヴィッド・ライト KCMG LVO

Art is a Journey, not a Destination



お祝い

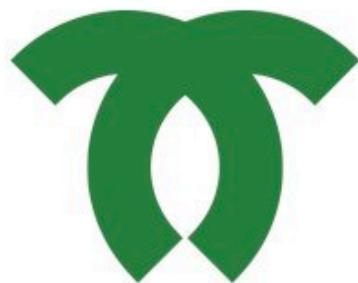
兵庫県 神戸市 中央区 山本通 1-7-17
ギャラリー北野坂

Classical Painting,
To-day, Tomorrow, Forever
Brian Zichi Lorentz展 御中

Classical Painting, To-day, Tomorrow, Forever Brian Zichi Lorentz展が 神戸ではじめて開催されますことを心から歓迎しますとともに お祝い申しあげます 西洋と東洋が融合したすばらしい芸術作品の数々が 私たちに深い感動と大きな喜びをもたらしてくれるでしょう 展覧会のご成功をお祈りしますとともに 世界市民としてのローレンツさんの今後ますますのご活躍を期待しています

兵庫県知事 井戸 敏三

Art is a Journey, not a Destination



ブライアン・ジーチ・ローレンツ展オープニング式 祝辞
平成15年6月3日（火）18：30 ギャラリー北野坂

このたび、ブライアン・ジーチ・ローレンツさんの個展が、
ここギャラリー北野坂において開催されますことを、
大変喜ばしく思います。

ロンドンを拠点に欧州で創作活動を展開されていた
ローレンツさんは、ご夫人の故郷である長野県に移り住め、
美しい自然の四季を描き続けてこられました。
約8年、長野県に住まれたローレンツさんが、
ここ神戸にお越しになったのは、故郷であるリバプールを
身近に感じることができるからだとお聞きしております。
神戸はローレンツさんの故郷リバプールと同じ港町であり、
ここ神戸に長い間求めていたものを見つけることができたとおっしゃっていました。
それほどまでに神戸を愛していただいているローレンツさんの
思いに、神戸市民を代表して心から感謝申し上げます。

今回の個展では須磨の桜や、
淡路島を望む海辺など生き生きとした神戸の風景を描かれた、約50点もの作品が披露されると伺っており、
非常に楽しみしております。

あの阪神・淡路大震災から8年余りが過ぎました。この間、
私たちは苦しみを乗り越えて、
復興に向けて懸命の努力を重ねてまいりました。こうしたなか、
本展を開催していただくことは、
市民に大きな夢と感動を与えられるものであり、
ローレンツさんの神戸に対する愛情は、市民にとって
大きな励ましとなり、勇気となるものです。
そして本展を通じ、素晴らしい作品の数々に触れることにより、
ローレンツさんの心の豊かさを感じることができるものと
期待しております。

最後になりましたが、ひとりでも多くの皆様に、

この展覧会をご覧いただきますことを祈念いたしますとともに、
ローレンツさんの今後ますますのご活躍を期待いたしまして、
私の挨拶とさせていただきます。



大沼 映夫

本年より第三文明展の審査に参加した。

日本画・洋画・彫刻・工芸・書が5部門を一堂に会しての審査は初めての経験である。最初少々戸惑いはあったが、新鮮な気持ちで作品を選考することができた。

第三文明賞に選ばれた仲安銀蔵「作品『宙』その2」は、重厚で迫力のある強い作品だ。全体の暗い色彩は、静寂な宇宙の広さと、未知なる世界の不安感を表現するのには極めて効果的である。確かな表現力は高く評価出来ると思う。

潮賞の足利桂子「風景・A」。白を基調とした画面に拡がりのある構成は外部に拡散され、作者の心の微妙な揺らぎを感じとれる巧みな線描により清楚で叙情豊かな作品を創りだした。前記作品に優るとも劣らない仕事だと思った。

奨励賞の名村仁「復活のメロディーを奏でる人」は超現実的な厚化粧の人物が舞台の中で身振りよろしく奏でる奇妙な仕事で、近年多くの公募展で見られる傾向の作品だ。力量のある人なので、事物の本質や我々人間の実体を透視する目を持てば、かなりの仕事が出来る人だと思った。

○ 奨励賞のブライアン・ジーチ・ロレンツ「日蓮物語1～6」は物語性の意図が明快に造形化され、静かで暖かく詩情あふれる仕事で6点それぞれ魅力があり引きつけられた。

Art is a Journey, not a Destination

ジーチ・ローレンツ氏の愛の芸術

原 禮之助

セイコーインスツルメンツ（株）

元 社長 現 顧問

最近の技術の進歩はめざましく、その恩恵により社会は益々便利となった。その反面、このような“技術主導型の社会”は、人々の生活を多忙にし、人間的なつきあいはうすれストレスに悩む人は多い。ストレスの結果、道義と倫理の荒廃をもたらしている。

現代社会において必要なこと、それは“愛の精神”と“他人に対する尊敬の念”と共に“やすらぎ”と“平和”といえよう。

ジーチ・ローレンツ氏の芸術は、人々の心を豊かにしてくれる。私が同氏の芸術をおすすめする理由である。

ローレンツ氏の芸術には“西欧と東洋の融合”という他の人々にはみられない特長がみられる。このため文化のちがい、国境をこえて同氏の芸術は広く世界の人々に愛されている。

国際的なその家系

世界で万人に愛されるジーチ・ローレンツ氏の芸術、これを理解するために同氏が育った環境と、自然と人間に対する同氏の深い愛情をしることが必要である。

ジーチ・ローレンツ氏の家系は欧州と米国、双方に源をもち“芸術と文化を愛する家風”をその特長とする。子供の頃の先生は父君であった。

同氏は東洋文化に深い興味を有し、東山魁夷はじめ多くの日本人芸術家の影響をその手法だけでなく“感性”と“精神”双方においてうけている。

新しい創造性に向けて

ジーチ・ローレンツ氏はヨーロッパにおいてすでに確立した名声を有する芸術家であるが、数年前夫人の故郷長野に居をかまえて以来、次なる完成に向けて“新しいアイディア”や“こころみ”をとりいれ不斷の努力を続けている。

ジーチ・ローレンツ氏は心のあたたかい、高い道徳を持つ人である。この人柄は同氏の芸術にもよくあらわれ、同氏は芸術を通し“自然の保護”と“世界の平和”への強いメッセージを発振しつづけている。喜久子夫人は同氏のよき理解者であり、ローレンツ夫妻は長い交友を持つことのできる数少ない友人と

Art is a Journey, not a Destination

いえる。

展覧会場や同氏のアトリエで同氏の芸術にふれ、一人でも多くの人々が私共人生にとって一番大切なこと“心のゆたかさ”を味わられることを切望します。

東京大学卒業。ワシントン大学、ハーバード大学研究員

元 セイコー電子工業株式会社 社長（1987年～1993年）

現 セイコーアイナルメンツ株式会社 顧問

（1997年7月1日より社名を変更）

〔国内〕

社団法人 経済同友会 顧問

社団法人 日本原子力産業会議 理事

社団法人 日瑞基金 会長

社団法人 新世代研究所 理事長

日興協会 会長

〔海外〕

スウェーデン王立科学アカデミー 会員

ルイジアナ州立大学基礎科学諮問委員会委員

国連工業開発機関 アドバイザー

